

# 事業実施報告書

団体名 一般社団法人埼玉県がん・生殖医療ネットワーク  
事業名 がんサバイバーが里親・養親になるための支援事業

## 1 事業の目的

若年がんサバイバーのQOL向上の課題として妊孕性温存に関心が高まっている。それと同時に妊孕性を温存できなかった若年がんサバイバーの家族形成にとって里親・養親になるという選択肢の重要性が認識されつつある。本福祉基金の支援を受けて2020年2月に「がん・生殖医療と福祉の協働」をテーマとして市民公開講座を行い、大きな反響を得た。本事業の研究はその市民公開講座で得られた知見をもとに具体的にがんサバイバーが里親・養親になるための支援をさらに具体化していくことである。

## 2 事業内容

### (1) 事業の概要

- ・文字の説明と合わせて、事業の全体像が分かる図表などを使った概念図（イメージ図）を記入してください。

本年度の事業は、がんサバイバーに対して昨年度事業の市民公開講座動画を視聴してアンケートを施行する。がんサバイバー向けの里親制度・特別養子縁組制度のパンフレットを作成する。



### (2) 事業の流れ

- ・事業開始後、時系列で取り組んだ内容を記入してください。
- ・催し等の日時・会場・回数・対象・参加者数などを具体的に記入してください。
- ・事業の様子が分かる写真（とその説明）を数枚貼り付けてください。

本年度の事業に関してはコロナ・パンデミックによって当初の計画から大幅に遅延したことを最初にお断りします。

- 2020年9月 獨協医科大学埼玉医療センター臨床研究許可申請 倫理審査で承認
- 2020年12月 パンフレット内容の原案を作成（制度説明、県内児相相談先、里親さんの言葉、里子さんの言葉、埼玉県里親会理事長あいさつ、埼玉県がん・生殖医療ネットワーク理事長あいさつ等）
- 2021年2月 パンフレット原稿とwebアンケートを完成
- 2021年3月 パンフレット配布予定、アンケート開始予定

## パンフレット原稿

**県内の養育施設の子どもの数と里親数**

施設名	施設数	子ども数	里親数
児童養育施設	10	約1,000	約1,000
児童自立支援施設	10	約1,000	約1,000
児童福祉センター	10	約1,000	約1,000
児童相談所	10	約1,000	約1,000
児童福祉センター	10	約1,000	約1,000
児童相談所	10	約1,000	約1,000

**埼玉県内の施設数**

施設名	施設数	子ども数	里親数
児童養育施設	10	約1,000	約1,000
児童自立支援施設	10	約1,000	約1,000
児童福祉センター	10	約1,000	約1,000
児童相談所	10	約1,000	約1,000
児童福祉センター	10	約1,000	約1,000
児童相談所	10	約1,000	約1,000

### 新しい家族を迎える里親の皆様へ

一般社団法人埼玉里親協会 理事長 塚崎美代

「新しい家族を迎える里親の皆様へ」というお言葉をいただくたびに、里親としての責任の重さを改めて感じています。子どもを迎えることは、その子の人生を大きく変えることでもあります。里親として、子どもを育て、育てる中で必要な生活費（教育費）（医療費）を支払う必要があります。また、子どもが成長するにつれて、様々な困難に直面することもあります。しかし、子どもが成長し、自立し、社会の一員として活躍できるよう育てることが、里親としての最大の責任です。里親として、子どもを育て、育てる中で必要な生活費（教育費）（医療費）を支払う必要があります。また、子どもが成長するにつれて、様々な困難に直面することもあります。しかし、子どもが成長し、自立し、社会の一員として活躍できるよう育てることが、里親としての最大の責任です。

### 新たな家族を迎えたいあなたへ

～がん治療後に子どもを持つという選択～

「新たな家族を迎えたいあなたへ」というお言葉をいただくたびに、里親としての責任の重さを改めて感じています。子どもを迎えることは、その子の人生を大きく変えることでもあります。里親として、子どもを育て、育てる中で必要な生活費（教育費）（医療費）を支払う必要があります。また、子どもが成長するにつれて、様々な困難に直面することもあります。しかし、子どもが成長し、自立し、社会の一員として活躍できるよう育てることが、里親としての最大の責任です。里親として、子どもを育て、育てる中で必要な生活費（教育費）（医療費）を支払う必要があります。また、子どもが成長するにつれて、様々な困難に直面することもあります。しかし、子どもが成長し、自立し、社会の一員として活躍できるよう育てることが、里親としての最大の責任です。

## あなたの一歩で子どもたちの未来が変わる

自然に境遇を受け入れられた幸せ

特例男子（長男）1名（男性 25歳）

特例女子（長女）1名（女性 57歳）

「自然に境遇を受け入れられた幸せ」というお言葉をいただくたびに、里親としての責任の重さを改めて感じています。子どもを迎えることは、その子の人生を大きく変えることでもあります。里親として、子どもを育て、育てる中で必要な生活費（教育費）（医療費）を支払う必要があります。また、子どもが成長するにつれて、様々な困難に直面することもあります。しかし、子どもが成長し、自立し、社会の一員として活躍できるよう育てることが、里親としての最大の責任です。里親として、子どもを育て、育てる中で必要な生活費（教育費）（医療費）を支払う必要があります。また、子どもが成長するにつれて、様々な困難に直面することもあります。しかし、子どもが成長し、自立し、社会の一員として活躍できるよう育てることが、里親としての最大の責任です。

(3) 連携・協力機関  
日本がん・生殖医療学会

### 3 成果及び今後の展開

- ・実施事業が団体全体の活動に及ぼした成果、効果、助成事業を行うことにより見えてきた新たな課題などを具体的に記載してください。

本事業によって作成されたがんサバイバー向けのパンフレットにて埼玉県内のがんサバイバーへの里親制度普及がすすむことが予想される。同時に若年がん患者の医療に携わる医療者にもそれらの制度の周知・啓発が期待される。がん・生殖医療の普及に取り組む厚労科研鈴木班では全国版での同様のパンフレット作成が予定されており、その際には**本事業で作成されたパンフレットが参考とされる**予定である。全国規模でのがんサバイバーへの里親制度・特別養子縁組制度の普及に大きく貢献することになる。

2020年12月に政府によって示された「全世代型社会保障改革の指針」では第2章少子化対策・不妊治療の保険適用等の中で、生殖医療患者に向けてがん治療に伴う不妊患者への支援、里親制度・特別養子縁組制度の周知啓発を進める指針を示している。2021年3月2日に参議院会館で行われた「生殖補助医療の在り方を考える議員連総会」では本事業の担当者である獨協医科大学の杉本が講演を行い、昨年度事業の市民公開講座での講演とそこから得られた知見を報告し、本年度事業のパンフレットの披露も行った。

アンケート調査に関しては集計後に結果を吟味して考察し、新たな知見と課題を検討していく予定である。

政府が示した指針に先駆けて埼玉県では埼玉県がん・生殖医療ネットワーク(SORNET)が若年がん患者の妊孕性の問題と里親制度・特別養子縁組制度の普及に取り組んできた。今後は若年がん患者のみならず生殖医療患者全体への普及啓発とそのための支援体制整備が課題となってくるものと考えられる。厚労科研前田班の追加研究として体外受精説明会での里親制度・特別養子縁組制度の情報提供に関する研究を杉本が承っており、獨協医科大学埼玉医療センターを中心に埼玉県こども安全課の協力のもと進めている。そのアンケート結果などの研究成果詳細については言及を控えるが、今後はがん・生殖医療を含む生殖医療患者に対する里親制度・特別養子縁組制度の普及啓発に対する支援を医療と行政等が連携して行うことになると考える。その支援のための里親会、若年がん患者を含む生殖医療患者、生殖医療従事者と行政のネットワークづくりが課題となってくるものと考えられる。その際に最も留意しなくてはならない点として、情報提供のファーストタッチを明確化し(杉本ら 日本生殖心理学会誌 2016)、一元化することである。患者、医療者、里親会の方々がその情報を得る際に、誰もが「まずはここにあたれば情報が得られる」と認識を共有するコンテンツが必要と考える。埼玉県内で生殖医療に関する活動実績があり、医療者のみならず里親会や行政と連携がとれているのはSORNETであると考ええる。SORNETのHPを作成し、そこに里親制度・特別養子縁組制度の情報コンテンツを掲載することが最も有用と考える(パンフレットもダウンロードできるようにすればより有用かもしれない)。SORNETのHPは埼玉医科大学総合医療センターのHP内の一部となっている。官民共同で新たに独立したHPを作成し、情報提供のファーストタッチとして明確化することが有用であると考える。